



東京芸術祭ファーム アートトランスレーターアシスタント(日英通訳) 募集

[応募締切 2021年6月26日(土)23:59 JST]

アートトランスレーターと共に創作現場のコミュニケーションをサポートしながら、実践に根ざしたノウハウを学ぶプログラムです。未来のアートトランスレーターを募集します。

今、国際協働企画においてコミュニケーションの観点から現場の場づくりをする「アートトランスレーター」の役割や重要性が認識され、その評価が高まっています。

東京芸術祭ファームでは、未来のアートトランスレーターのための経験の場として、通訳・コミュニケーション業務をサポートする「アートトランスレーターアシスタント」を募集します(有償)。言語の変換にとどまらず、多文化・多言語間の創作のつなぎ手となる重要な役目です。

実際の国際協働の現場で若手アーティスト等と連携しながら、コミュニケーションデザインチームのもとで実践的な経験を積み、ノウハウを深める機会です。

▶こんな方にオススメ

- ・トランスレーターとして舞台芸術の現場を経験したい方
- ・多文化・多言語の集まる創作の現場に必要なコミュニケーションのあり方について、実践を通じて考えたい方
- ・舞台芸術を巡る課題やアジアの文脈に関心がある方
- ・今後アートトランスレーターとして活動をしていくことに興味がある方

▶オンライン説明会実施

6月8日(火) 20:00~

- ・東京芸術祭YouTubeチャンネルにてライブ配信
- ・詳細は東京芸術祭Webサイト (<https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>) にてご確認ください

コミュニケーションデザインチーム より

トランスレーターはよく、創作の場から切り離された「黒子」や、言語を変換する「機械」のような存在だと思われがちです。しかし、様々な文脈や表現を扱う芸術の領域においては、国際協働の現場ごとに固有のコミュニケーションの形が存在します。そして、その中でのトランスレーターの言葉の選び方や周囲との関わり方は、現場のあり方や作品にまで影響を与えます。アートトランスレーターの仕事とは、人と人の間に立つメディアーター(媒介者)として、創造の場に能動的に関わり、その場に必要なコミュニケーション環境を構築していくことです。それは決してロボットのように画一的な作業ではなく、アーティストと同じ視座に立ち、緊密に連携しながら作品制作の現場を作り上げる、非常にクリエイティブな営みです。トランスレーションやコミュニケーションの可能性を一緒に模索したいという好奇心旺盛な方に、ぜひ応募して頂きたいと思います。そして今回の経験が未来のアートトランスレーターを生むきっかけになることを期待しています。

コミュニケーションデザインチーム: Art Translators Collective

(チーフ: 田村かのこ メンバー: 山田カイル、春川ゆうき、森本優芽、水野響、椋山智子)

■ コミュニケーションデザインチームについて

東京芸術祭ファーム「Farm-Lab Exhibition」「Asian Performing Arts Camp」のコミュニケーションデザインをアート専門の通訳・翻訳者による活動団体「Art Translators Collective」がチームとして担当します。舞台芸術、現代アートを中心にさまざまな創作の場で、多様な表現者とそこに関わる人々のつなぎ手を務めてきたアートトランスレーターたちが、その知見を活かし、それぞれのプログラムに必要とされるコミュニケーションのあり方を提案していきます。ディレクター、参加アーティスト、ファシリテーターなどと連携しながら、それぞれの出自・立場・参加形態に関わらず参加者・関係者全員が公平に安心して創造に参加できるコミュニケーション環境の構築を目指します。

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催: 東京芸術祭実行委員会 [豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、
公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンスル東京)]

助成: 令和3年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業



実施概要

■ 活動内容

- 期間中は、コミュニケーションデザインチームのもとで業務を実施。
- 以下①②のいずれかを担当し、通訳演習またはそれに準ずる業務を実施（70時間分で調整）。
具体的な担当内容は相談の上、決定します。各プログラムについては【別紙】を確認してください。

担当	内容
① 「東京芸術祭ファーム Farm-Lab Exhibition」の通訳アシスタント（日英）	アートトランスレーターと連携しながら、国際コラボレーション作品の創作におけるコミュニケーションをサポートする。 <ul style="list-style-type: none">● オンライン／対面でのミーティング、稽古場、劇場での通訳業務。● 参加者全員が気持ちよく創作の現場に参加できるよう、風通しのよいコミュニケーション作りをサポート。● 創作中に必要となる翻訳業務のサポート。
② 「東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Camp」の言語サポート（日英）	アートトランスレーターと連携しながら、オンラインで行われるディスカッション・リサーチにおけるコミュニケーションをサポートする。 <ul style="list-style-type: none">● オンラインミーティングの通訳業務。● 参加者全員が気持ちよく創作の現場に参加できるよう、風通しのよいコミュニケーション作りをサポート。● プレゼンテーション等で必要となる翻訳業務のサポート。

- 上記の他、下記に参加（30時間以内で調整。30時間を超える内容は任意参加）
 - ・アートトランスレーターに必要な技術についての研修（現場で活躍するアートトランスレーターによる実践的な通訳講座・研修を受講できます）
 - ・コミュニケーションデザインチームとの定期的なミーティング（活動内容についてのフィードバック、相談 等）
 - ・プログラム共通で実施する顔合わせ、交流会
 - ・担当プログラムの創作現場やミーティング等の見学（通訳業務を担当していない時 等）

※以上の活動は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して実施します。

■ 実施日程

- オリエンテーション：7月19日(月)～7月25日(日)の中で参加者と調整（3時間程度×1回を予定）
- 活動日：2021年7月26日(月)～11月1日(月)で各参加者と調整
（活動の日程は、担当プログラムによって異なります。詳細は【別添】を確認してください。）
- 最終フィードバックセッション：11月上旬

※上記以外で参加が必要なスケジュールについて、案内をお送りする場合があります。

※上記は2021年6月1日現在の情報です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等ふまえ、内容は変更となる可能性があります。

■ 活動場所

- オンライン（使用ツール：Zoom 等）
- 水天宮ピット（東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」より徒歩2分）
- 東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト（「池袋駅」西口より徒歩2分）

※活動内容によって、上記以外の場所で実施する場合があります。

※居住地等の都合でオンラインでの活動のみを希望する場合は、応募時に連絡事項として記入してください。

東京芸術祭ファームは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ガイドライン」（<https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>）に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

募集概要

■ 応募資格

次の1～6のすべてにあてはまる方

1. 日英通訳ができる語学力がある方
2. 原則20歳以上
3. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
4. 原則、7月19日(月)～9月30日(木)で週1日以上、10月1日(金)～11月1日(月)で週2日以上の活動が可能な方
※活動ができない期間がある場合は、応募時に期間を明記してください。
5. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる方
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、miro、Google Drive、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）
*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
6. 東京芸術祭ファームの関係者と信頼関係を築きながら業務を遂行する意思のある方

■ 謝金

アシスタント謝金：10万円（税込）

■ サポート

- アートトランスレーターに必要な技術についての研修を実施
- 活動期間中、通訳やコミュニケーションのサポート方法について、コミュニケーションデザインチーム（Art Translators Collective）が随時サポートを実施
- 移動が発生した場合は、交通費別途支給（1日あたり上限1,000円）
- 保険加入（費用はプログラム側が負担）

■ 募集人数

5名程度

■ 選考スケジュール

応募受付	応募締切：2021年6月26日（土） 23:59（日本標準時） ・オンラインのフォームにて受付
一次選考：書類審査	結果発表：2021年7月6日(火)までにメールにて合否を通知 ・応募時の内容をもとに選考を実施
二次選考：面接	選考実施日：2021年7月8日(木)～10日(土) ・オンラインにて実施（使用ツール：Zoomを予定）
採用者決定	結果発表：2021年7月15日(木)頃までにメールにて採否を通知

※採否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ずメールでの連絡が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

| 応募フォーム <https://form.run/@ata2021>

<必要事項>

1. 氏名
— 自分に対して使用してほしい代名詞 (he, she, they 等 / 自由記述)
2. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
3. 生年月日
4. メールアドレス
5. 連絡先住所
6. 日中連絡のつく電話番号
7. 職業 (所属など)
8. 略歴 (日本語400字または英語250ワード以内 / 日英どちらでも可)
※海外経験等、言語のバックグラウンドが分かる内容を記入してください。
9. 英語 (もしくは日本語) レベルが分かる資格 等 (あれば)
10. これまでの通訳経験 (あれば)
※分野、形式 (アテンド、商談通訳等)、方法 (逐次・ウィスパリング・同時) など、なるべく具体的に書いてください。
11. 得意とする通訳 (選択式)
日英 通訳 ・ 英日 通訳 ・ 日英、英日 通訳両方 ・ わからない
12. これまで舞台芸術に関わった経験、学んだ知識 等 (あれば)
13. 応募動機 (日本語400字または英語250ワード以内 / 日英どちらでも可)
14. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式 / 複数選択可)
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」 (p. 3) を確認してください。
15. 参加に際して使用するネットワーク環境
16. 実施日程 (p. 2) の内、参加ができない日程や活動ができない期間 (あれば)
17. 二次選考期間 7月8日(木)、7月9日(金)、7月10日(土)の内、面接に参加できない日時 (あれば)
18. 他の東京芸術祭ファームのプログラムで応募を予定しているもの (選択式 / あれば)
※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
19. 応募にあたっての連絡事項など

■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

【お問い合わせ】 APAF制作オフィス MAIL : apaf@tokyo-festival.jp TEL : 03-4213-4293 (平日10時~19時)

※記載の情報は2021(令和3)年6月1日現在のものです。内容等は変更になる場合がございます。

活動期間中に担当するプログラムについて

活動期間中は「東京芸術祭ファーム Farm-Lab Exhibition」「東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Camp」のいずれかのプログラムを担当し、通訳演習またはそれに準ずる業務を行っていただきます。

- ・具体的な担当内容は相談の上、決定します。
- ・下記に記載の業務時間見込みはあくまで一例です。活動日程は参加者と調整の上、決定いたします。
- ・各プログラムの募集要項もあわせてご参照ください。(<https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>)

● Farm-Lab Exhibition

アジアを拠点に活動する若手アーティストが集い、舞台芸術作品の創作トライアルを行います。ネス・ロケ（APAF2020 Lab 参加者）と敷地理（APAF2018 アートキャンプ参加者、APAF2019 Exhibition 美術）がディレクションチームとして共同で演出を担当、出演者は公募により決定し、参加者全員で協働しながらクリエーションを進めていきます。また、アドバイザーとして劇作家・演出家の松田正隆がディレクションチームの創作をサポートします。

7月下旬よりオンラインにてクリエーションを開始、10月からは東京に集まり1ヶ月間の滞在制作を行います。10月最終週には成果発表として、東京芸術劇場アトリエイースト・アトリエウエストにて、ワークインプログレスを一般公開し、観客からフィードバックを受けながら作品をブラッシュアップしていきます。

実施期間：2021年7月下旬～11月1日(月)

	場所	日程	業務時間 見込み (合計70時間)
顔合わせ	オンライン (Zoom)	7月下旬 ※日程は出演者等決定後に調整	業務なし ※要参加
オンライン 稽古		9月中旬～：週1～2回、各回2時間程度 ※日程は出演者等決定後に調整	8時間 (2時間×4回)
滞在制作	水天宮ピット (東京)	10月1日(金)～25日(月)： 週5～6日、各日13:00～18:00 ※上記時間外にミーティングを実施する可能性あり	30時間 (2時間×15日) ※業務時間外の見学等は別途調整
成果発表 (一般公開)	東京芸術劇場 アトリエイースト、 アトリエウエスト	10月26日(火)～31日(日) ※上記期間内でリハーサル、上演(3回以上)を実施	30時間 (5時間×6日)
ラップアップ / 修了式	未定	11月1日(月)	2時間

(次ページに続く)

【別紙(2/2)】

● Asian Performing Arts Camp

約2ヶ月にわたり定期的にオンラインセッションを重ね、参加者それぞれの活動テーマや関心領域を出発点に、レクチャーやディスカッション、協働して行うリサーチを通して共に思考を深めるプログラムです。活動の最後には、参加者全員が期間中に取り組んだリサーチを一般公開のプレゼンテーション（オンライン）にて発表します。期間中はファシリテーター2名（JK アニコチェ（昨年度に引き続き担当）、山口恵子（APAF2020 Lab 参加者））が参加者に伴走し、国や文化を超えた協働の可能性を共に探求していきます。

実施期間：2021年8月25日(水)～11月1日(月)

※基本的に全日程をオンラインで実施

※活動時間は各日3～4時間程度（プレゼンテーション実施日やコア期間等、左記に該当しない場合もあります）

	日程	業務時間 見込み (合計70時間)
前半活動	8月25日(水)、8月31日(火)、9月7日(火)、 9月15日(水)、9月22日(水)	7時間半 (1.5時間×5日) ※業務時間外の見学等は別途調整
中間プレゼンテーション	リハーサル：9月28日(火) 本番：9月29日(水)	6時間 (3時間×2日)
後半活動	10月6日(水)、 10月12日(火) 、 10月13日(水) 、 10月14日(木) 、10月18日(月)、10月21日(木)、 10月25日(月) ※ 10月12日(火) 、 10月13日(水) 、 10月14日(木) はコア期間 として、 各日3時間以上の実施を予定。	12時間 (1.5時間×4日、2時間×3日) ※業務時間外の見学等は別途調整
最終公開プレゼンテーション / フィードバックセッション	10月26日(火)～31日(日) ※上記の期間内で、4～5日程度活動を実施（リハーサル、 最終公開プレゼンテーション、フィードバックセッション）。	20時間 (4時間×5日) ※業務時間外の見学等は別途調整
ラップアップ / 修了式	11月1日(月)	2時間
上記日程外で、下記を実施。 ・ファシリテーターやスタッフとのミーティング ・プレゼンテーション等で必要となる翻訳業務 ・Slack上でのコミュニケーションサポート 等		22時間半

APAF から東京芸術祭ファームへ

このたび、東京芸術祭の人材育成プログラムとしてアジア次世代の作り手たちの協働と実験の場として人材や作品、国籍や文化を超えたネットワークを生み出してきた“APAF (Asian Performing Arts Farm)”は、これまで東京芸術祭及びフェスティバル/トーキョーが取り組んできた研究開発・教育普及プログラムを組み込んで、より裾野を広げ高みを目指す“東京芸術祭ファーム (Tokyo Festival Farm)”へとバージョンアップします。

ディレクター体制も APAF から引き続きディレクターとして多田淳之介、新たに共同ディレクターとして長島確を加えた2名体制へ、さらに APAF2020 から導入したコミュニケーションデザイン制度を基にガイドラインを策定し、異なる他者へのリスペクトを前提としたコミュニケーションの徹底、個々がクリエイティビティを発揮できる環境作りとハラスメント防止にも積極的に取り組んでまいります。

これまでも舞台芸術は異なる他者と協働し、様々なボーダーを超えてきました。グローバル化が進み、通信手段や移手段の発達によって異なる他者がより身近になった現在は、国籍や民族、言語などの枠組みが融解しはじめ多様な個がフィールドを行き交う“トランスカルチャー／トランスフィールド”環境が進んでいます。「国際的」という言葉の意味も「普段は混ざってない異文化が混ざること」「国外でも流通すること」から、「日常的に異なるものが混ざり合い複雑化したこの世界の価値観を提示すること」へと変わっていくでしょう。そして舞台芸術の役割もこの世界を映す鏡として変化していくのを感じています。

東京芸術祭ファームの「国際的」な次世代育成の場としてのミッションは、ボーダーの融解するトランスフィールド／トランスカルチャー環境を体感し、様々な価値観と出会いながらこの複雑化した世界を捉える力を育み、国や文化を超えて様々なフィールドをトランスし活躍する人材の輩出、そのための持続可能な環境作りです。

それが世界中で多様化と同時に生まれている「分断」に対抗していくものになると信じています。

2021年、未来に向けバージョンアップした舞台芸術のファームを、どうぞよろしく願いいたします。

東京芸術祭ファーム 2021 テーマ「都市の価値／Why Cities？」

昨年の APAF2020 は“Anti-body Experiment”というテーマのもと、オンラインの可能性とリアルな身体を捉え直し「集まらないこと」への抗体を作る実験でした。今年の東京芸術祭ファーム 2021 では COVID-19 の感染（拡大／収束）状況の違いが残る世界を背景に“都市の価値／Why Cities?”というテーマを掲げます。これは国や地域ごとに固有のキャラクターを持ちながらも、経済や効率、消費と生産、そして感染症拡大リスクという共通のイシューを持つ「都市」をめぐる、これからの生き方についての問いかけです。何が変わって、何が変わらないのか。私にとって。私たちにとって。あなたにとって。あなたたちにとって。様々なサイズや距離によっても揺らいでいく「価値」は誰のものなのか。プログラム参加者も観客も、ファームを訪れる異なる者たちで共に考えるためのトリガーです。

2021年6月

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、舞台芸術の祭典・東京芸術祭の人材育成機能を集約した新しい枠組みです。アジアでの若いアーティストの交流と成長のプラットフォームである Asian Performing Arts Farm (APAF: エーパフ) にフェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発・教育普及プログラムが加わって誕生しました。出会いと学びの場「スクール」、現場研修の機会「インターンシップ」、研究開発に挑む「ラボ」の3つのカテゴリーがあります。参加者公募を中心とする多様なプログラムのなかで、他者と協働しながら地域や分野を超えた“トランスフィールド”を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。

ラインアップ詳細はこちら <https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>